

●教室(診療科)の特色●

当科は、高槻市・茨木市・摂津市・長岡京市・枚方市・吹田市およびその近隣地区の歯科口腔外科治療の中核を担う診療科です。周辺歯科医師会との密接な連携のもとに、口腔内に発症するあらゆる病変の専門的治療を行っています。また、がん治療患者さんの口腔ケアなどを通じた医科歯科連携医療にも力を注ぎ、当科を受診される患者さんに高度で安全・安心な医療の提供に全力を注いでいます。



植野 高章(うへの たかあき)教授(科長)

■専門分野

口腔外科手術、顎骨欠損症例への骨移植術とインプラント外科治療

■職歴

平成 5年 7月 岡山大学歯学部助手

平成21年 2月 福井大学医学部准教授

岡山大学歯学部非常勤講師

米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校歯学部客員教授

平成23年 9月 大阪医科大学教授(現 大阪医科薬科大学)

■主な学会／専門医資格

(社)日本口腔外科学会専門医・指導医、日本口腔インプラント学会専門医・指導医、
日本がん治療認定医機構教育医(口腔外科)、日本顎顔面インプラント学会指導医、
日本口腔ケア学会

■研究課題

成長因子を応用した骨の再生医療とその組織学的評価法開発、咬合機能の回復と全身状態の評価、
悪性腫瘍治療患者の口腔衛生管理に関する研究

●診療科の概要・特徴●

当科で専門的に扱う治療は、顎骨や口腔粘膜に発生する腫瘍、顎骨外傷、嚢胞性疾患、口腔粘膜疾患、顎関節疾患、顎炎、顎変形症、睡眠時無呼吸症および全身疾患を有する患者さんの口腔外科治療です。耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科と連携し、外傷や腫瘍で顎を喪失した患者さんの顎骨再建や歯科インプラントによる咀嚼機能再建にも積極的に取り組んでいます。また、がん治療中の患者さんや、心臓血管外科手術を受ける患者さんの専門的口腔ケアを行い、術後誤嚥性肺炎予防や抗がん剤による口腔粘膜炎の重症化予防に効果をあげています。

●教室(診療科)指導医・上級医●

氏名(職掌)	専門医	研究課題
真野隆充(准教授)	(社)日本口腔外科学会専門医・指導医	口腔腫瘍・顎変形症
中島世市郎(講師)	(社)日本口腔外科学会・専門医	顎骨再建
井上和也(講師)		矯正歯科
他助教3名		

初期臨床研修プログラムの特徴

大阪医科薬科大学病院における歯科医師国家試験合格後の初期臨床研修の目的は、研修プログラムに基づいて、関連領域の基礎的知識と医療技術および歯科医師としての態度を習得することにあります。

この初期臨床研修プログラムは総合的な歯科医学研修を実践できることに特徴があります。

■ 連絡先：大阪医科薬科大学口腔外科学教室 TEL:072-683-1221

■ ホームページ：<https://www.ompu.ac.jp/u-deps/ora/>

到達目標と研修内容

【基本的診療業務 1.基本的診療能力等】

到達目標	研修内容
(1)基本的診察・検査・診断・診療計画	
①患者の心理・社会的背景を考慮したうえで、適切に医療面接を実施する。	正しい医学用語を用い患者と対話する。
②全身状態を考慮した上で、顎顔面および口腔内の基本的診察を実施し、診察所見を解釈する。	問診(口腔、全身)口腔内診査、歯式の記入を適切に行える。
③診療所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。	問診の結果必要な、X線検査、歯周病検査などを施行する。
④病歴の聴取、診察所見および検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。	③で施行した、結果を適切に解釈し、診断を行う。
⑤診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な口腔単位の診療計画を検討し、立案する。	④の診断に基づき、治療計画を指導医と相談して立案する。
⑥必要な情報を整理したうえで、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者および家族の意思決定を確認する。	治療計画を患者に配慮した上で行う。
(2)基本的臨床技能等	
①歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	TBIを説明、実施する。
②一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療および管理を実践する。 a.歯の硬組織疾患 b.歯髄疾患 c.歯周病 d.口腔外科疾患 e.歯質と歯の欠損 f.口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	a.CR修復 b.根管治療 c.スクーリング d.抜歯術などの小手術 e.義歯 f.口腔粘膜疾患、顎変形症、高齢化による機能低下の治療を経験する。
③基本的な応急処置を実践する。	指導医に止血処置について指導を受けたうえで症例があれば対応する。
④歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	観血的処置前にモニターを使用してバイタルサインを確認する
⑤診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。	電子カルテに正確に記入する。
⑥医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	院内研修会に参加する。
(3)患者管理	
①歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	全身疾患、服用薬剤について指導医の講義を受講し、理解を深める。
②患者に医療情報等について必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	主治医に対し治療に必要な全身疾患について診療情報提供を求める。
③全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	処置時のバイタルサインを確認し、実際の患者との様子を注意して観察する。
④歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	指導医の講義を受講し、偶発症への対応の理解を深める。
⑤入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前、術後管理及び療養上に管理を実践する。	入院時の口腔内確認、カルテに正確に記入する。
(4)患者の状態に応じた歯科治療の提供	
①妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。	指導医のもと、口腔内のう蝕、歯周病予防、口腔機能管理について説明する。
②各ライフステージおよび全身状態に応じた歯科医療を実践する。	

⇒上記をもとに医師としての礼節・総合的な歯科治療能力を習得する

【基本的診療業務 2.歯科医療に関連する連携と制度の理解等】

到達目標	研修内容
(1) 歯科専門職の連携	
① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	口腔ケア施行時に歯科衛生士と症例について検討する。
② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	歯科技工指示書作成時に技工士と作製物について検討する。
③ 多職種によるチーム医療についてその目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し説明する。	指導医による講義を受講。
(2) 多職種連携、地域医療	
① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	指導医による講義を受講。
② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	
③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的および各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	周術期口腔管理のチーム医療に参加し、口腔機能の管理を行う。
④ 歯科専門職が関与する多職種チーム(例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等)について、その目的および各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	栄養サポートチームの検討、ラウンドに参加する。
⑤ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。	入退院時の多職種支援の検討に参加する。
(3) 地域保健	
① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	指導医による講義を受講。
② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	
(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解	
① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	指導医による講義を受講。
② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	指導医による講義を受講。正確な保険診療請求を行う。
③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し説明する。	指導医による講義を受講。

⇒上記をもとに医師としての礼節・総合的な歯科治療能力を習得する

学術活動

- 教室内での専門分野の抄読会
- 学術大会への参加・発表
- 症例についての論文作成

研修病院群

研修は単独型であるので研修病院への派遣はないが、2年目に関連病院での研修を行う場合がある。

評価方法

指導医は定期的に研修内容を評価し、その評価に基づいて研修医の指導を行う。研修の前半と終了時に、研修医の到達進捗程度を、経験症例数や報告書などを判断材料として、評価を行い、研修管理委員会により最終評価を行う。

週間スケジュール

月曜日	外来診療 病棟処置
火曜日	外来診療(一般歯科)、中央手術 入院カンファレンス
水曜日	外来診療、外来手術 病棟回診
木曜日	外来診療、外来手術 病棟処置
金曜日	外来診療、中央手術 病棟処置
土曜日 (第1、3、5週)	外来診療 病棟処置



口腔外科手術室

後期研修プログラムの特徴

国が定めた歯科における研修期間は1年間です。しかし、大阪医科薬科大学の歯科研修プログラムでは、臨床手技の習得に重点化した専門的な歯科口腔外科後期研修プログラムを組んでいます。

より高度で、専門的な疾患の診断・治療を担当し、その中からより深い知識と臨床能力を身につけ、大学院などへの研究分野に進んでいくことも可能です。

研修プログラム

プログラム責任者: 植野 高章

<2年目>

研修内容

2年目は麻酔科(6か月間)、場合により他の隣接科での研修を行う。

<3年目～5年目における研修方法>

研修内容と到達目標

外来ならびに病棟において主治医となり、積極的に臨床に携わる。特に(社)日本口腔外科学会専門医取得を目標として研修を行う。

プログラムに参加する医療機関等

大阪医科薬科大学病院 歯科口腔外科

取得できる認定医・専門医

(社)日本口腔外科学会専門医

日本口腔科学会認定医

日本口腔インプラント学会専門医

日本顎顔面インプラント学会専門医

日本口腔ケア学会認定医



クリニカルクラークシップ

参加学会等

日本口腔外科学会／日本口腔科学会／日本口腔インプラント学会

日本口腔腫瘍学会／日本口腔粘膜学会／日本口腔ケア学会

日本顎顔面インプラント学会／口腔診断学会／日本顎関節学会

日本咀嚼学会

The Hard Tissue Biology Network Association

international Association of Oral and Maxillofacial

Surgery (IAOMS)

European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery

主なる関連病院

市立ひらかた病院／藍野病院／藍野花園病院

公立学校共済組合中国中央病院／北出病院

枚方市口腔保健支援センター／千里丘中央病院／太子病院



顕微鏡下口腔外科治療



海外共同研究: カナダ・バンクーバー プリティッシュ・コロンビア大学

大学院における研究活動

口腔疾患全般にわたって、医師、歯科医師として必要な幅広い理論と経験を身につけるとともに、それらを裏付けるための臨床的ならびに基礎的研究を行います。臨床研究においては、歯科口腔外科先進医療の開発を目指します。基礎研究においては臨床における問題点を解明するための最新の研究を行います。高度化する医学へ対応するため、他大学および他研究施設と積極的に交流しています。

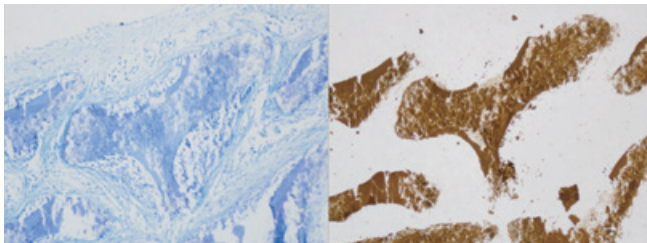
現在の研究テーマとその概要並びに展望

①口腔ケア・歯周病と全身疾患の関連に関する研究

近年、糖尿病や誤嚥性肺炎などの全身疾患との関連からう蝕や歯周病などの歯性感染症のコントロールを中心とした口腔ケアの重要性が広く認識されるようになった。当科のような医科大学附属病院においてはがんを扱う院内各科や心臓血管外科から口腔ケアの依頼が急増しつつある。しかし、一般的な口腔ケアの重要性は認識されているものの、疾患ごとのあるいは科別の口腔ケアの意義についてのエビデンスは未だ不十分である。頭頸部外科における口腔ケアの意義や心臓血管外科における口腔ケアの意義など、症例を蓄積し分析している。また、歯周病とリウマチの関連についても内分泌内科と共同研究を開始している。

②骨補填材を用いた硬組織再生の研究

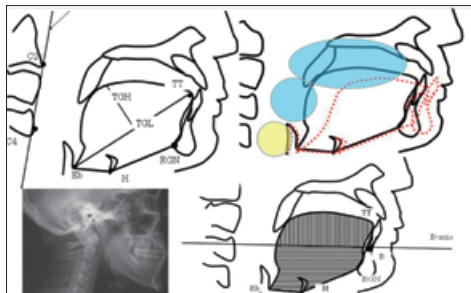
歯槽堤骨欠損部位への歯科インプラント手術に際して、不足した骨量を回復するために骨増成手術が行われる。骨増成手術の際に使用される骨補填材の骨形成過程は未だ不明な点が多い。有効性を科学的に検証し、臨床における歯槽骨再生を効率的に行うための研究を行っている。



ラット骨欠損部の骨補填材の組織像(左:トルイジンブルー、右: von Kossa染色)

③睡眠時無呼吸症候群に関する研究

閉塞性睡眠時無呼吸症候群(OSAS)の歯科的なアプローチを行った研究を行っている。これまで、画像分析によるOSAS患者の顎骨形態や口腔装置が顎骨形態や気道、舌に与える影響に関し研究を行ってきた。これら研究成果であるOSASの治療法については、積極的に公開し、地域医療の進展を図るなど社会的貢献も行っている。今後は顎変形症や頭頸部腫瘍など、頭頸部領域の術後における顎顔面の形態変化が気道へ及ぼす影響について検討し、OSASにおける歯科的アプローチを行う予定である。



④口腔内細菌叢ゲノム解析

様々なライフステージの全身状態の変化により口腔内細菌叢がどのように変化するか?を解明するために口腔内細菌叢のゲノム解析を行っている。とくに小児難病、糖尿病、ALSなどの患者のもつ口腔内細菌叢のデータベース作成を通じて新規診断法や治療法の開発を目指す。



⑤濃厚血小板血漿(Plate-Rich plasma: PRP)の臨床基礎研究

濃厚血小板血漿(Plate-Rich plasma: PRP)をインプラント手術時の骨造成や埋伏智歯の抜歯後の治療促進に臨床応用している。骨の再生や創傷治癒に有用であることは解っているがPRPに含まれるVEGF、TGF- β 、PDGF等の成長因子の濃度については不明な点が多い。PRPに含まれる成長因子について濃度の経時的変化などの臨床に直結した研究を行っている。

⑥グラフトレス・チタン人工骨開発

骨欠損再生医療分野では、骨修復の方法として組織再生誘導法(GBR法)が注目されている。しかし広範囲な骨欠損や複雑な形態の骨欠損には応用が困難とされてきた。われわれは自由な三次元形態をもつチタン表面に様々な処理を施し、広範囲で複雑な形態の骨欠損を再生する新規骨再生マテリアルの開発を目指し、次世代型骨再生法の研究を、中部大学、大阪冶金興業と行っている。

